

高知大学演習林の近況（令和2年度）

高知大学農林海洋科学部附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター森林生産環境部門

新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度は学外からの実習利用は中止し、学内の実習も演習林宿舎の宿泊は避けて、通常は連泊して数日間連続して行う実習を、日帰りの実習を複数日実施するなどにして対応している（写真1）。森林科学関係の実習は屋外で行われることから一般の講義や実験・実習に比して感染症対策の難易度は高くないが、それでも3密を厳密に避けるとなると、キャンパスと演習林を往復する際の学生のバス移動における乗車率が問題となる。しかし、これについては、バスの乗車定員を減らして運用することに加えて教職員が公用車を複数台出すなどの措置を行うなどでのいである。来年度の演習林での実習、特に宿舎の宿泊利用については、今後の動向を見て判断していく予定である。

一方、技術職員による演習林の維持管理作業は支障なく進めることができている。今年度は演習林担当の技術職員2名のうち1名が、農場と部署を交代した。この移動で新しく演習林の業務を担当することになった技術職員については、4月から機械操作等に必要な各種研修を順次受講する予定であったが、やはり感染症対策のために5月頃までは県の研修センターも研修を実施できなかったため業務への支障が懸念された。しかし高知県においては6月頃から県の施設は通常に近い業務実施となったため、以降業務に必要な研修はおおむね受講することができ、この原稿を記している11月下旬現在では、伐木や作業道作設など一連の機械を使用する業務および林業機械を用いた実習指導も滞りなく実施できている（写真2）。このような中、継続して演習林業務を担当している早田技術職員が9月に全演協森林管理技術賞の若手奨励賞を受賞したことは、関係教職員一同大きな喜びであった。この場をお借りして、関係各位にお礼申し上げる。

（森林生産環境部門長 鈴木保志）



写真1 4月に演習林で行った植え付け実習（マスク着用などこの時点ではまだ感染症対策に慣れない中での実習となった）



写真2 技術職員による油圧ショベル操作の実習指導（講義科目名は「森林作業システム学・同演習」）